

第2回総合教育会議資料

日時：平成28年11月29日（火） 午後3時～

議題：平成29年度当初予算編成（教育委員会所管主要事業）
について

各課の主な事業

【教育総務課】

- ・北谷第二幼稚園園舎改築事業 P 1
- ・桑江中学校校舎耐震対策事業（耐震補強設計） P 2
- ・浜川小学校プール改築事業（実施設計） P 3

【学校教育課】

- ・校務支援システム導入推進（校務支援システム管理事業） P 4～P 5

【社会教育課】

- ・桑江総合運動場改修工事 P 6
- ・町立博物館整備事業 P 7
- ・伊礼原遺跡保存整備事業 P 8
- ・北谷城保存整備事業 P 9

【給食センター】

- ・北谷町立学校給食センター施設整備事業 P 10～P 13

事業名：北谷第二幼稚園園舎改築事業

1 事業概要（目的）：昭和54年度に建設された北谷第二幼稚園の園舎は、昭和56年以前の旧耐震建物であること、建築後36年が経過し施設の老朽化が著しいことから、改築を行い耐震化及び教育環境の改善を図る。

2 効果：事業全体：本事業を実施することにより、耐震化及び教育環境の改善が図られる。

3 事業計画について：

平成25年度 基本設計（24,150千円）幼稚園、小学校

平成28年度 実施設計（20,412千円）

平成29年度 工事完了（予定工事費 257,875千円）

3 整備概要：整備面積800㎡（現有面積：576㎡）構造鉄筋コンクリート造1階建

4 事業費：319,394千円（平成29年度工事費）

（改築工事257,875千円、解体工事17,652千円、備品、カーテン9,293千円、

その他工事14,326千円、磁気探査4,014千円、既設校舎解体に係る工事16,234千円）

5 財源内訳：国庫補助金115,200千円、県補助金3,812千円、一般財源200,382千円（起債は企画財政課と調整し額が決定現時点では単費とする。）

6 耐震化関連事業について

北谷第二小学校屋内運動場耐震対策事業：耐震化のため、北谷第二小学校屋内運動場耐震補強工事を執行した。具体的内容は、耐震補強工事として玄関庇補強、屋根鉄骨ブレース補強・塗装、外壁塗装、内壁塗装を実施。耐震化に併せて改築工事としてトイレ改修、屋根防水を実施した。

平成25年度 耐震診断（3,549千円）

平成26年度 耐震補強設計（11,664千円）

平成27年度 耐震工事（52,032千円）

北谷第二小学校校舎改築事業：耐震化及び教育環境の整備のため、北谷第二小学校校舎改築事業を執行した。

平成25年度 基本設計（24,150千円）幼稚園、小学校

平成26年度 実施設計（65,208千円）

平成27年度～平成28年度 改築工事（1,768,363千円）

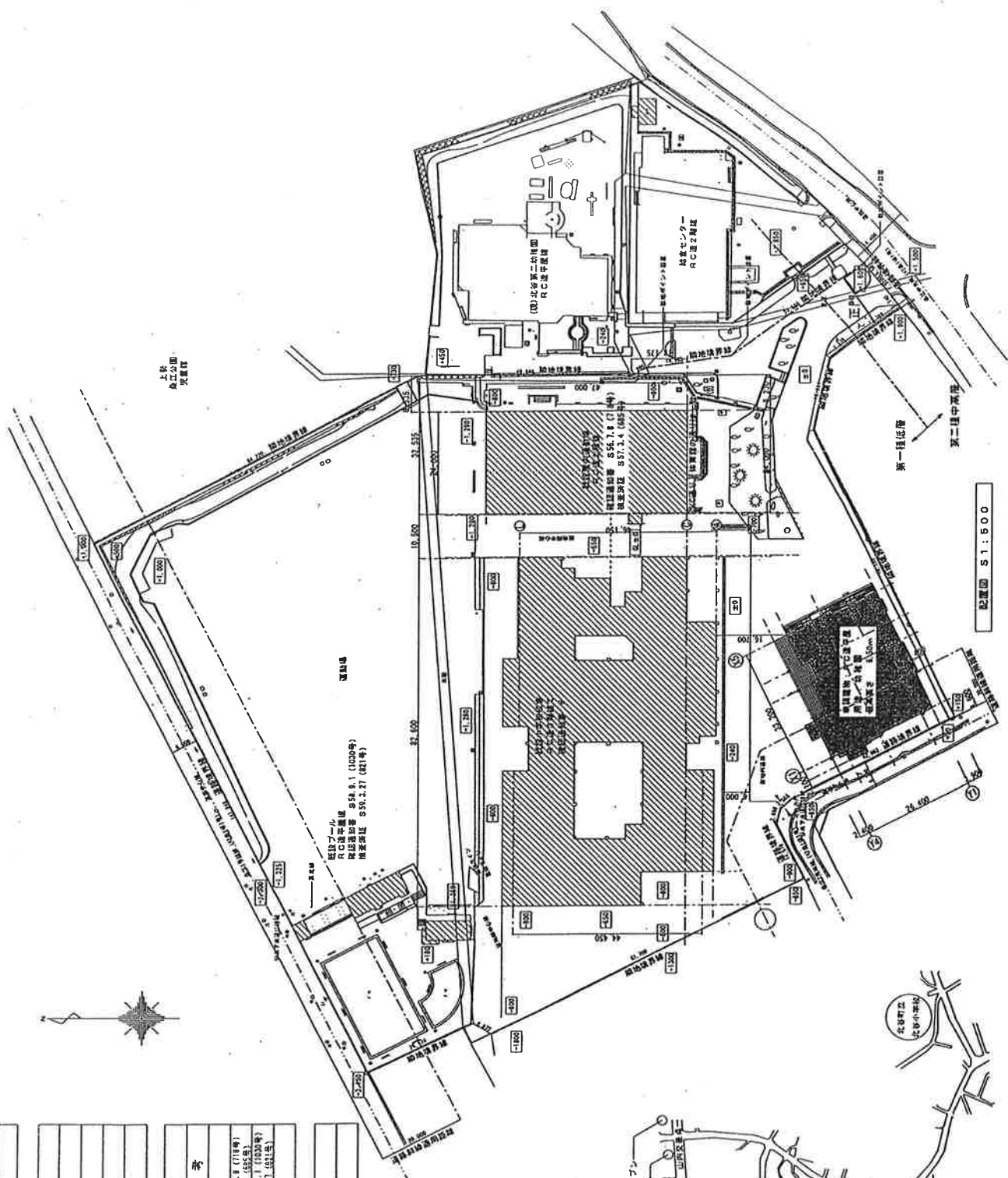
（平成27年9月18日～平成28年12月9日）

敷地面積 21,369.76m²

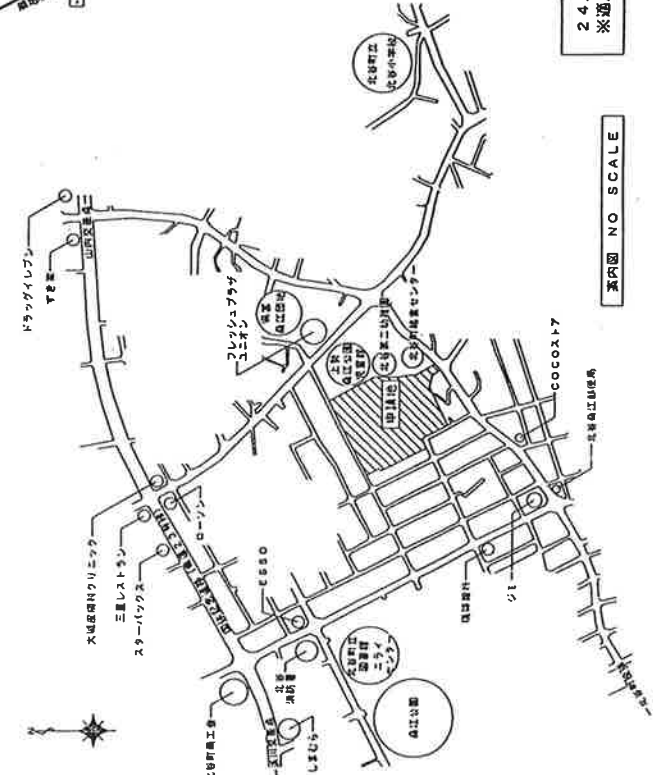
増築建物	
建物名	建築面積
幼稚園	800,282.500 m ²
合計	800.28 m ²

既設建物			
建物名	建築面積	床面積	備考
小学校	3,373.82 m ²	6,805.98 m ²	既設建物 増築部分
体育館	1,654.89 m ²	1,388.50 m ²	既設建物 増築部分 S56.7.8 (718号)
プール	162.350 m ²	150.72 m ²	既設建物 増築部分 S57.3.4 (655号)
合計	5,191.06 m ²	8,345.20 m ²	既設建物 増築部分 S58.3.21 (821号)

合計	建築面積	延べ床面積
	6,096.27 m ²	9,145.48 m ²



配置図 S1:500



道路斜線制限の検討
 24.86m x 1.25 = 31.07m > 最高の高さ13.94m
 ※適用距離範囲外で制限受けない

案内図 NO SCALE

事業名：桑江中学校校舎耐震対策事業（耐震補強設計）

1 事業概要（目的）：昭和56年度に建設された桑江中学校の校舎は、昭和56年以前の旧耐震建物であることから、耐震補強工事を行い耐震化及び教育環境の改善を図る。

2 効果：事業全体：本事業を実施することにより、耐震化及び教育環境の改善が図られる。

3 事業計画について：

平成28年度 耐震診断調査（15,423千円）

平成29年度 耐震補強設計業務（予定委託費25,531千円）

平成30年度 耐震補強工事及び改修（予定工事費390,000千円）

4 業務概要：調査面積5,324㎡

① 校舎1号棟（管理棟）・・・3,276㎡

② 校舎10号棟・・・・・・・1,490㎡

③ 校舎11号棟・・・・・・・558㎡

5 事業費：25,531千円（平成29年度耐震補強設計費）

6 財源内訳：一般財源 25,531千円

（設計時は単費で実施、H30年度工事に併せて1/2の補助）

7 耐震化関連事業について

桑江中学校屋内運動場耐震対策事業：耐震化のため、桑江中学校屋内運動場耐震補強工事を執行した。具体的内容は、耐震補強工事として1階の2スパン耐震壁新設、改修工事として外壁、内壁の塗装工事、防水工事、瓦撤去の上塗膜防水敷設を実施した。

平成26年度 耐震診断（7,982千円）

平成27年度 耐震補強設計（16,719千円）

平成28年度 耐震工事（28,209千円）

事業名：浜川小学校プール改築事業（実施設計）

- 1 事業概要（目的）：昭和54年度に建設された浜川小学校プールは経年劣化により、ろ過装置や配管内部の腐食により、水中に錆が顕在化してきており、大きな錆の断片だと利用者に怪我をさせる可能性がある。保守業務やプール清掃で一時的にしのいできているが、厳しい状況が続いている。このような事から、老朽化の著しい浜川小学校プールの建て替えを行い教育環境の改善を図る。

- 2 効果：事業全体：本事業を実施することにより、教育環境の改善が図られる。

- 3 事業計画について：
平成29年度 実施設計業務（24,840千円）
平成30年度 プール改修工事（200,000千円）

- 4 業務概要：水面積400㎡

- 5 事業費：24,840千円（平成29年度実施設計費）

- 6 財源内訳：一般財源 24,840千円（設計費は単費、工事費は学校体育諸施設整備事業）

1 趣旨（目的）

近年、教職員の学校現場での児童生徒への指導は、ますます困難な状況に直面している。学力向上に関する子どもの貧困と教育格差の拡大、特別な支援を要する児童生徒（特別支援教育）の著しい増加への対応、外国人児童生徒の増加、深刻化するいじめ・不登校などの生徒指導上の課題への対応、価値観の多様化による保護者対応、各種調査物への対応などの様々な職務が求められてきている。

その様な変化の激しい社会の中で生き抜く子どもを育成するためには、時代の変化に対応して、子どもたち一人ひとりに様々な力（資質・能力）を身につけさせることが必要であり、子どもが自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の充実など、授業改革を図っていくことが求められる。

また、子どもの豊かな成長を保障するためには、教職員の「子どもと向き合う時間」を確保することが必要不可欠である。そのために、学校における業務の改善（校務の情報化の推進）は有効な手立てである。

そこで、町内各小中学校の教職員の「子どもと向き合う時間」を確保するための一つの方策として校務支援システムの導入が考えられる。現在、実際の学校現場におけるニーズ等の把握に努めている。

※校務支援システムとは、学籍・出欠・成績の管理や児童生徒の学習履歴等の情報共有ができるシステムである

2 町立学校の現在の状況（支援が求められる主な校務）

- (1) 各学校での名簿作成、名簿情報の管理
（平成28年度より男女で区別しない名簿の導入）
- (2) 各学期及び年度末及び教科の単元毎の成績処理
- (3) 子どもの出欠状況の情報管理（生活指導に係る情報共有）
- (4) 通知表作成（学期毎に手書きで作成している現状もある）
- (5) 指導要録（生徒個人毎に毎年度作成の義務がある）
- (6) 進学書類の作成（高校入試における調査書）
- (7) 各種の調査物への対応

3 予算措置の内容（計画） 平成29年度～平成34年度

- (1) 平成29年度 中学校校務支援システム保守料 中学校2校
（県立教育センター配信の既存の進路指導システムの廃止に伴う）
62,000円 予算計上
3 88
 - (2) 平成30年度 小中学校校務支援システム使用料（5カ年契約）小中6校
（平成34年度まで） 16,048,800円 予算計上
- （単年度予算 3,210,000円）

学校現場における業務改善のためのガイドライン

～子供と向き合う時間の確保を目指して～

平成27年7月27日

文 部 科 学 省

2 業務改善の基本的な考え方と改善の方向性（P23）

(3) 校務の効率化・情報化による仕事のしやすい環境づくり
(教育委員会の取組事項)

<基本的な考え>

- 教育の質の向上を図っていくためには、教職員が働きやすい環境の中でその能力を発揮し、本来の教育活動に専念できるようにすることが重要である。
- 校務の効率化が、学校における日常的な業務改善に関する取組の積み重ねから、校務支援システムの導入といった教育委員会の支援を必要とする大がかりなものまで、そのと取組は様々である。このため、教育委員会は、主体的に業務改善を推進するための体制を構築した上で、学校と十分に連携を図り、各学校の実態等に応じた校務の効率化を積極的に図ることにより、教職員にとって仕事のやりやすい環境整備を整備することが必要である。
- また、校務の情報化等により業務の効率化を進めるに当たっては、これを業務全体の見直しの機会として位置づけ、学校現場の業務改善に組織的に取り組む体制を確立することが求められる。

桑江総合運動場改修工事

1 事業概要

桑江総合運動場は、町営体育施設として町内外の方に多く利用されている。

設置されて30年以上が経過し、グラウンド表層が長年の雨により流出し、砕石路盤が露出した状態になっており、利用者のケガ等身体の影響が懸念される。

安全性を確保し、スポーツ環境の整備を図る必要があるため、全面改修を行う。

2 効果

町民が集い、スポーツの場としての社会教育施設が、いつでも安心して利用できるように整備をすることで、利用者の増加が期待され、町民の健康増進に寄与できる。

3 進捗状況

平成28年度	実施設計（6,696千円）
平成29年度	改修工事（89,694千円）

4 財源内訳

平成28年度	6,696千円（単費）
平成29年度	89,694千円（80,000千円防衛省9条、9,694千円単費）

町立博物館整備事業

1 事業概要

キャンプ桑江北側の米軍基地返還に伴い発見された伊礼原遺跡は、約7000年前から500年前までの連綿とした人々の歴史を語る貴重な遺跡であることから、平成22年2月に国指定史跡として指定を受けた。

当遺跡の整備を図るとともに、縄文前期から近世までの先人たちの生活を裏付ける優れた歴史的文化遺産である当遺跡の資料を中心とし、北谷町に点在する収蔵庫や駐車場施設の確保が必要なことから、遺跡に隣接し、学校教育、生涯教育としての学習施設、西海岸地区との連携した文化発信拠点として町立博物館設置が検討された。

2 効果

従来の博物館として展示公開するだけでなく、学校教育・生涯学習の場として気軽に参加、体験学習ができる施設として整備する。また、本町の文化発信拠点として西海岸地区と連携し、人々が集う中から多様な活動を通して、歴史文化の創造・振興等、多彩な情報発信が見込まれ、コミュニティ活動が活性化する。

3 進捗状況

財源は、平成24年度より新設された一括交付金を活用し、効率的に事業の推進を図る事とした。平成28年度より縄文人養成講座を開催し、ボランティアガイドの養成を図っている。

平成24年度	基本構想	(2,048千円)
平成25年度	用地購入(0.6ha、451,802千円)、基礎調査	(3,087千円)
平成26年度	基本計画	(15,520千円)
平成27年度	基本設計	(41,148千円)
平成28年度	管理運営計画	(3,402千円)
平成28年度～平成29年度	実施設計(繰越)	(79,488千円)
平成30年度～平成31年度	建設工事	(1,277,172千円)
平成31年度	周辺整備工事	(109,000千円)
平成32年度	開館	

4 課題

博物館については、開館までに博物館事業のほか、北谷の歴史文化の把握、資料・情報収集、ボランティアガイドの育成、広報活動等が急務となっている。

また、伊礼原遺跡との一体的な整備を進め、観光資源としての事業展開等、将来にわたる安定した運営ができるよう、管理運営計画の策定が求められている。

平成30年度から平成31年度にかけて予定している建設工事及び周辺整備工事の財源確保が課題となっている。

伊礼原遺跡整備事業

1 事業概要

伊礼原遺跡は、ウーチヌカーの湧水を中心として縄文時代からグスク時代まで約7000年間の人々の生活址が見られる極めて貴重な地域である。

遺跡は、丘陵麓から海岸方向へ広がる低地にかけて立地している。往時の人々がこの地を選んだのは、丘陵麓から湧き出る湧水の存在が飲料水を確保し、山と海を育んだ自然の幸が得られやすい環境であったからと考えられる。そして、この地理的環境を活かし、縄文時代から戦前まで「集落」を形成していったようである。

遺物は、従来は残りにくい種子や樹木などの保存状態が良好で、獣魚骨・貝殻など多数出土した。これらの分析結果から往時の古環境が復元できる貴重な遺跡である。

特に、南西諸島で縄文時代の約4000年間の全時期が連続して見られる遺跡は、伊礼原遺跡に限られており、沖縄、南日本の縄文時代を知る上で極めて重要であることから、平成22年2月に国指定となった。

伊礼原遺跡の保存活用については、隣接地に博物館を整備し、遺跡公園として一般の利用に供する予定である。

2 効果

伊礼原遺跡整備事業は、歴史的遺産を恒久的に保存し、未来に継承することを目的とする。

併せて史跡公園として整備することにより、歴史学習や環境学習などを通じて郷土愛が育成され、様々な生涯学習の場、観光資源としての活用が図れる。

3 進捗状況

平成22年度～平成23年度 保存管理計画（11,487千円）

平成25年度 用地購入（1.7ha 1,476,951千円）

平成25年度～平成26年度 基本計画（18,681千円）

平成27年度 基本設計（14,148千円）

平成28年度 実施設計・敷地造成工事（60,888千円）

平成29年度 実施設計・基盤整備工事（76,372千円）

平成30年度～平成31年度 実施設計・史跡整備工事（365,148千円）

平成32年度 供用開始

4 課題

未返還地（米軍貯油施設部分）の追加指定をどう取り扱っていくか課題がある。

実施設計より文化庁補助事業（補助率80%）として整備していくが、全国的に文化庁補助金の配分が制限されているため、整備の進め方について、国、県との調整が必要となっている。

また、事業費が大きいため、町負担分の確保を企画財政課と調整を図る。

伊礼原遺跡公園は1.7haの広大な敷地を整備するため、技術職の配置を要する。

今後予定されている北谷城の返還に伴う国指定への作業や基地返還に伴う文化財発掘調査と住み分けをするため、博物館・史跡整備室の設置について検討する。

北谷城保存整備事業

1 事業概要

北谷城は、東西に伸びる独立丘陵上に石垣が西側に向かって、四つの郭から成る連郭式の大規模なグスクである。その規模から地方としては、かなり有力なグスクであった可能性が高い。

昭和58年度より平成13年度までの間に16回の調査が行われ、その結果、石垣が築かれる前、12世紀以前と考えられる柱穴が確認されたことから、集落が形成されていたと思われる。

その後、有力按司の台頭により、北谷・玉代勢・伝道を城下町にし、居城したと思われる。

石垣の構築は出土した中国産陶磁器より14世紀後半から15世紀中頃と考えられ、二の郭には舎殿跡も確認されている。そのころがグスク最盛期と思われる。

その後、北谷城は廃城となり、ノロによる年中行事などの祭祀を執り行う祭場としての機能へ変わってゆく。このように、12世紀以前の集落跡から有力按司による築城、その後の近世の祭祀場に至るまでの変遷が追える貴重なグスクである。

北谷城は平成31年度返還予定であり、国指定史跡に向けて取り組んでいるところである。

指定後は石垣などの復元整備を行い、城跡公園として公開活用を行っていく計画である。

2 効果

北谷城が国史跡指定を受け、グスク公園として整備することにより、教育普及、文化振興、観光振興に寄与する。

3 進捗状況

平成26年度	資料整理・図面作成（4,564千円）
平成27年度	資料整理・発掘調査（18,095千円）
平成28年度	資料整理・報告書作成（21,438千円）
平成29年度	資料整理・報告書作成・任期付職員の採用（内閣府補助事業） （27,229千円）
平成30年度	発掘調査・報告書作成・地権者同意（24,407千円）
平成31年度	報告書作成・地権者同意・国指定（24,407千円）

4 課題

環境補足協定締結（H27）後、米軍基地への立入調査が制限され、北谷城の範囲について調査ができない状況である。立入調査の実施を目指し、米軍・防衛局と引き続き協議を行っていく。

また、跡地利用関係部署と連携を密にし、地権者への理解が得られるよう事業を進めていく。

北谷町立学校給食センター施設整備事業について

学校給食センター

H28.11

1 事業目的

旧基準の耐震基準で整備された現学校給食センターは、施設・設備とも老朽化がすすみ、施設・設備の修繕、不具合が多発し安定稼働に不安があるが、施設の改修に必要な余地がなく、電源、蒸気ボイラの性能不足等で改修にも制限が生じており、調理場を安定的に効率よく運営するコストが小さくない。

また調理場だけでなく来客の駐車場をはじめ、職員の会議室や駐車場等、福利厚生、庶務機能施設の不足している。

平成21年度に改正された学校給食衛生管理基準に適合させ、より高度の衛生環境の整備をととのえる必要がある。さらに町民の長年の要望となっている食器の改善や、追加改修等では対応困難な食物アレルギー食の施設対応等をすすめるため新たな共同調理場の施設整備を図るものである。

2 効果

○新耐震基準で建設されることによる耐震をはじめ施設の防災設計の強化をはじめ、調理場設備の更新、職員厚生施設の拡充を図り、安全でより快適な職場環境を整えられる。

○改正学校給食衛生管理基準に適合させた施設整備による、衛生的・合理的共同調理場整備の実施。

○町民の要望に応えた食器の改善及び、食物アレルギー対応食の提供施設整備等、学校給食の目指す安全・安心な給食の提供体制の整備を図ることができる。

3 予算措置の内容と事業経過と施設整備計画

平成25年度	学校給食センター施設整備基本構想	5,250千円
平成26年度	学校給食センター施設整備基本計画	7,224千円
平成27年度	町PTA連合会より学校給食センター施設整備に関する要請書提出を	

受け、対応をまとめる間は事業執行保留とする。

要請項目①食器の改善 ②食物アレルギー食対応 ③安全で質の高い給食の提供と給食費の値上げとならないために調理場炊飯を実施 ④学校給食センター整備事業での町 PTA 連合会との協議を行なう。

・平成 28 年 5 月 教育委員会回答①食器の改善実施 ②食物アレルギー食対応実施 ③従来同様の質を確保し委託炊飯を行なう。なお、委託炊飯に因る給食費の値上げは行なわず、給食の質を確保するため給食費の補てんを実施する ④町 P T A 連合会と協議を行う について町 P T A 連合会にて承認されたとの回答を得る。

平成 28 年度 学校給食センター施設整備基本設計 11,685 千円

・防災拠点整備地区の道路整備計画変更による学校給食センター用地調整を受け、学校給食センター用地の再配置調整を必要とする。

・9 月議会一般会計予算執行一部留保発議を受け、学校給食センター施設整備状況の周知を強化する取り組みを実施する。

平成 29 年度 学校給食センター施設整備実施設計 32,729 千円

平成 30 年度 学校給食センター施設整備着工 1,241,500 千円

平成 31 年度 学校給食センター施設供用開始 58,300 千円

5 課 題

○改正学校給食衛生管理基準適合調理場は、調理単位毎に区分され、従来型よりも広い面積を必要とし、調理場の空調管理も求められるため、調理員の増、光熱水費の増等の維持管理費の増が見込まれる。

○食器の改善は、食器の点数を増やすため、その保管・消毒、配送、洗浄の費用、人員の増を必要とする。また、学校の配膳室に改修等が必要な場合がある。

○食物アレルギー食対応は、調理場の整備にとどまらず保護者、学校、給食センターにより、児童生徒の給食の環境整備の取組であることを関係者一同が共通認識し、医学的知見や、対応の限界を踏まえて取り組む必要がある。その取り組みの中で給食センターでは、調理場の整備、栄養士・調理員の研修を実施し、学校給食の充実を図る。

北谷町教育委員会施設整備計画(H28年4月11日現在)

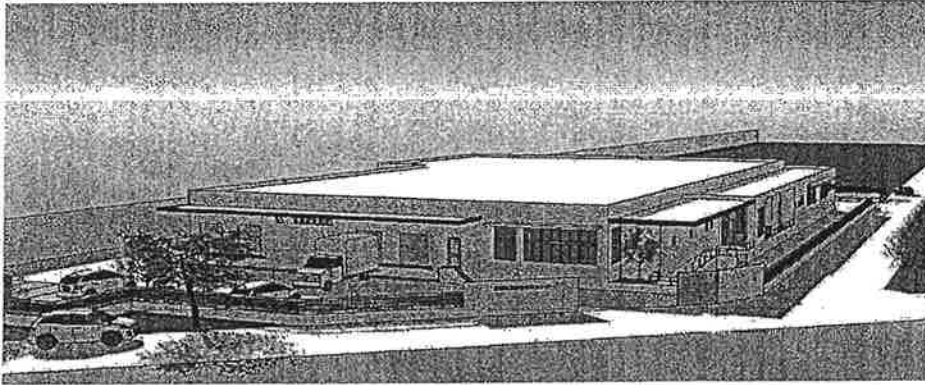
	対象施設	事業費 単位(千円)	年 曆		2015		2016		2017		2018		2019		2020		合 計		
			年	曆	平成27年度まで	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度									
21	給食センター	給食センター建設事業場整備事業	調査			0	11,685	32,729	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44,414	
			実施設計			0	0	0	0	1,241,500	58,300	0	0	0	0	0	0	0	1,299,800
			建設工事(工事・管理)	1,344,214		0	11,685	32,729	0	1,241,500	58,300	0	0	0	0	0	0	0	1,344,214
			合計			0	11,685	32,729	0	1,241,500	58,300	0	0	0	0	0	0	0	1,332,529
			補助 単費			0	11,685	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22			調査			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			実施設計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			建設工事(工事・管理)			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			補助 単費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

保護者の皆様へ 給食センターからのお知らせ



ファイリソシンカ 特集号

平成28年11月発行・特集第1号
北谷町教育委員会
北谷町立学校給食センター
〒904-0103 北谷町字桑江566番地1
TEL 936-3269 FAX 936-6896



新学校給食センター外観イメージ

第二小学校の隣にある学校給食センターは、昭和53年に完成してから、今年で38年を数えています。その間安全で栄養があり楽しみとなる給食を届けてきました。しかし、建物や調理施設の老朽化がすすんでいることや、以前から要望のある食器の改善をはじめ、新しい衛生管理基準に適合した食物アレルギー食の対応も行える調理場の必要から、新しい学校給食センターの建設事業に取り組んでいます。

今回は、特に要望のある食器の改善についてご紹介します。

食器の改善で 何が変わるの

【 現行の課題 】

- ・食器が椀とランチプレートのため、ご飯は左、汁物は右の配置ができない。またランチプレートからすくい取って食べるため顔を食器に近づける犬食いとなる場合がある
- ・ランチプレートの盛付が難しい。(特に中学校)牛乳やデザート等は机の上に置くことになる

【 改善後 】

- ・和食の基本配膳 汁椀、飯椀、おかず皿がそろえられ食器を手にとり食べやすく、食事のマナーもととのえられる
- ・献立に応じて、食器の組み合わせを変えて盛付できる
- ・トレーの上に牛乳やデザート等を並べることで、より衛生的に食べられる

【ご飯献立】



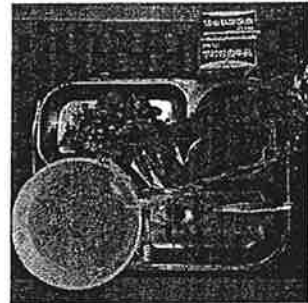
よりたのしく

【めん献立】



よりきれいに

【パン献立】



より食べやすく



食器が変わります

平成29年度ハワイオキナワフェスティバル派遣事業実施要綱（案）

1 派遣の目的

本町の文化活動の活性化を目指し、伝統芸能の振興を図るため、沖縄の伝統文化の継承を目的とし、ハワイで開催される「オキナワフェスティバル」へ北谷町青年連合会等を派遣する。ハワイ在住の県人会、町人会との伝統芸能等を通しての交流を図ることも目的とする。

2 派遣対象者：北谷町青年連合会等

フェスティバル演舞者（50名）、団長（1名）、副団長（1名）及び世話役（1名）。ただし、派遣に関し、他より補助を受ける場合は、派遣対象者を減員することができる。

3 予算額及び対象経費（派遣対象者に係る経費）

177,450円×50人+196,000円（バスチャーター代）=9,068,500円

- ① 航空運賃
- ② 航空運賃に関する諸税
- ③ 空港への送迎及び県人会歓迎会送迎の交通費（4日間）
- ④ 宿泊代（朝食含む）
- ⑤ 演舞に必要な道具の運搬費用

4 派遣期間

平成29年9月2日（金）～9月6日（火）（3泊5日）

5 報告書の作成

本事業において、派遣されたものは、帰国後速やかに派遣に関する報告書を作成し、北谷町教育委員会に提出するものとする。

※ オキナワフェスティバル 概要

オキナワフェスティバルは、「ハワイ沖縄連合会（HUOA）」主催によるもので、ワイキキのカピオラニ・パークで毎年8月末～9月の週末に行われるフェスティバルである。戦後、ハワイに住む沖縄系3世達が沖縄を訪れ、その文化を目の当たりにし、ハワイでも自分たちの祖先の文化を伝えていかななくてはならないという思いから開催されることとなった。フェスティバルは2日間にわたって行われ、会場では歌や踊り等の沖縄芸能の披露や各市町村会の沖縄の食べ物の出店、沖縄県産品の販売などが行われる。来場者は2日間で、約5万人が見込まれる。

— FIRST PLACE —
HAWAII'S
BEST
2015
AWARDS BY THE GREAT AWARDS SOCIETY

— FIRST PLACE —
HAWAII'S
BEST
2016
AWARDS BY THE GREAT AWARDS SOCIETY

September 3&4

2016



Hawaii United Okinawa Association

34th

Okinawan Festival

Kapiolani Park • Honolulu, Hawaii

September 3

Okinawan Festival 9AM - 5PM

Bon Dance 5:30PM - 9:30PM

September 4

Okinawan Festival 9AM - 5PM

\$3 Shuttle



#okifest2016

from Kapiolani Community College • Saturday (10am - 10:30am) Sunday (10am - 6pm)

www.okinawanfestival.com

(808) 676-5400

Sponsored by the
Hawaii United Okinawa Association